

# 第91期報告書

2015年4月1日-2016年3月31日

# 株主のみなさまへ

本年より、決議通知を廃止いたしましたので、ご了承くださいませようお願いいたします。  
なお、第91期定時株主総会の決議結果は当社ホームページをご参照くださいますようお願いいたします。



株主のみなさまには、  
平素より格別のご支援を賜り、  
厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第91期  
(2015年4月1日から2016年3月31日まで)  
のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

**中里 佳明**

## 目次

- 1 Top Message
- 5 連結業績ハイライト
- 7 **特集** 株主アンケート
- 9 トピックス
- 11 連結財務諸表(要約)
- 13 会社情報
- 13 株式状況
- 14 株式メモ

## 第91期連結決算の概要について

**金属価格の急落およびシエラゴルダ鉱山社の減損損失の計上により、大幅な減益となりました。**

当期の世界経済は、中国の成長ペースが鈍化し、資源国においては経済悪化がみられました。

非鉄金属価格については、銅とニッケルの価格は中国経済の減速懸念や先行きの不透明感から大幅な下落となりました。銅は前年度比20%の下落、ニッケルは前年度比38%の下落と、前年度と比較し大幅に低い水準となりました。金価格については全体的に小幅な値動きとなりました。

材料事業では、スマートフォン向け電子部品、車載用電池向け部材が引き続き好調を維持しました。

このような状況のなか、当期の売上高は、金属価格の下落などにより前年度比7%減少し、8,554億円となりました。営業利益も金属価格の下落およびこれに伴う在庫評価損の計上などにより、53%減少し597億円となりました。経常損益ではこれらに加え、シエラゴルダ鉱山社の減損損失を計上したこと、期末にかけて急速に進んだ円高により為替差損が発生したことなどにより、128億円の損失となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は3億円の損失となっています。

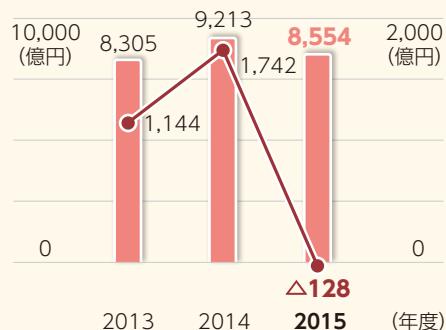
## 連結業績ハイライト

■ 売上高(左軸)

**8,554**億円

● 経常損益(右軸)

**△128**億円



## 2012年中期経営計画(12中計) の振り返り

タガニートHPALの本格稼働、  
シエラゴールド銅鉱山の商業生産開始と  
長期ビジョンに向けた権益確保は進みましたが、  
計画した業績は達成できませんでした。

タガニートHPALニッケル社(フィリピン)は2009年にプロジェクトの実施を決定し、12中計期間の2014年度から本格稼働を開始しました。現在まで、順調な生産を続けています。一方でシエラゴールド銅鉱山(チリ)は、2011年に参画を決定し、2015年7月から商業生産に入っていますが、商業生産が遅れたことに加えて目標収率の達成が遅れており、さらに金属価格下落の影響もあったことから減損損失を計上することになりました。

長期ビジョンで掲げた金属資源の権益確保に向けた戦略は進みましたが、業績については課題の残る結果となりました。

このようななか、2016年2月に当社がすでに12%の権益をもつモレンシー銅鉱山(アメリカ)の権益13%を追加取

得することをフリーポート・マクモラン社と合意し、5月にその手続きを完了しました。モレンシー銅鉱山はアメリカで長い歴史をもち、世界トップクラスの生産量を誇る銅鉱山です。安定した操業を続けており、今後の当社資源事業にとって重要な存在となると考えています。



タガニートHPALニッケル社(フィリピン)

## 2015年中期経営計画(15中計) について

引き続き長期ビジョンの達成に向け  
成長戦略を推進していきます。

当社をめぐる事業環境が大きく変化するなか、今年2月に15中計を発表しました。資源・製錬事業では09中計から長期ビジョンである銅権益30万トン、金権益30トン、ニッケル生産能力15万トンをかかげ権益拡大を進めてきました。15中計でもその方針は変わりません。現在、金属価格の先行きが見通しづらい状況にありますが、これまで進めてきた戦略や増強投資の効果を活かしていくため生産性の維持向上により確実に収益確保をめざしていきます。また金を中心に積極的に探鉱を進めるとともに、既存鉱山の獲得も視野に入れて資源権益の拡充をめざしていきます。

材料事業では、今年3月に電池材料の新しい生産拠点となる住鉱エナジーマテリアル(株)檜葉工場(福島県)が完成しました。車載用電池材料の需要はこれからさらに大きくなることが見込まれています。また、スマートフォンなどの情報通信分野向けの結晶材料も高機能化の流れのなかで需要の拡大が予想されており、これら成長分野に向けた電池材料・結晶材料の増産を進めていきます。

## コーポレートガバナンスの 取り組み

社外取締役を1名増員し、  
よりガバナンス体制を強化します。

第91期定時株主総会でご承認いただき、社外取締役を1名増員いたしました。これにより、取締役8名のうち3名が独立した社外取締役となりました。

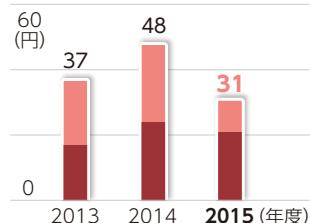
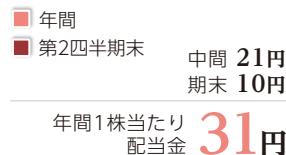
当社はコーポレートガバナンスを、当社グループの企業価値の最大化と健全性の確保を両立させるために企業活動を規律する仕組みであり、経営上最も重要な課題のひとつと位置づけています。

## 配当方針について

期末の配当金は10円とさせていただきます。

12中計期間の配当性向は25%以上とし、業績連動での配当を実施する方針としています。通期の業績予想を見直した第2四半期決算公表時に、2015年度の配当金は年間31円(中間21円、期末10円)としました。その後、シエラゴルド鉱山社の減損等により通期の業績は純損失となったものの、期末配当は10円のまま据え置いております。15中計期間の配当性向は30%以上とする方針としています。

### 2015年度1株当たり配当金



## 株主のみなさまへの メッセージ

引き続き成長戦略を進めることにより  
企業価値の向上をめざしていきます。

2015年度は金属価格の下落および期末の円高の影響などにより、当社としては13年振りの当期純損失となりました。

中国をはじめとする新興国経済の不透明感も続いており、それを受け非鉄金属市況は見通しづらい状況が継続しています。こうしたなかでも引き続き成長戦略を着実に進めていくことと安定収益を確保することが、企業価値を向上させていく上で最も重要と考えています。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



モレンシー銅鉱山(アメリカ)

# [連結業績ハイライト]

## 資源セグメント



菱刈金鉱石

### 当期の概要について

- 菱刈鉱山(鹿児島県)の2015年度の金の生産量は6.9トンとなりました。
- ポゴ金鉱山(アメリカ)では品位低下により前年度と比べ生産量は減少し、2015年度の実生産量は8.8トンとなりました。
- 海外銅鉱山では、モレンシー銅鉱山では拡張プロジェクトが2015年5月に完成し、生産量は大幅に増加しました。またセロベルデ銅鉱山(ペルー)でも拡張プロジェクトが2016年3月末に完成し、今後生産量の伸びが期待されます。シエラゴルダ銅鉱山では2015年7月から商業生産に入りましたが、操業立ち上げの遅れおよび金属価格下落などにより損失を計上しました。

### 今後の展望

- 2月にモレンシー銅鉱山の権益の追加取得に合意し、5月に取得の手続きが完了しました。今後の優良な資源の確保が見込まれます。
- シエラゴルダ銅鉱山では、操業度の向上とコスト削減により、損失を減少させる取り組みを進めていきます。
- 金では、マインライフ最大化の観点から菱刈鉱山の2016年度の実生産量は、6.0トンを計画しています。

## 製錬セグメント



電気銅

### 当期の概要について

- 銅製錬では、2015年度に東予工場(愛媛県)で2年振りの定期修繕を行いました。計画通りとなる約42万トンを生産しました。
- ニッケル製錬では、フィリピンのタガニートHPALニッケル社、コーラルベイニッケル社とともに安定的な生産を継続しました。ニッケル工場および播磨事業所での生産も順調に推移しています。

### 今後の展望

- 銅製錬は安定した製錬マージンを確保できることから、操業度の維持とコスト削減により競争力強化を図っていきます。
- ニッケル製錬では、価格の急激な回復は見込みにくい状況が続くと想定されますが、タガニートおよびコーラルベイでHPALプラントの安定した操業を行うことで確実にコストを下げ、利益の確保を図っていきます。

## 材料セグメント



結晶材料(タンタル酸リチウム基板、ニオブ酸リチウム基板)

### 当期の概要について

- 電池材料は、車載用電池向け需要が好調で大幅に販売が増加しました。また、2016年3月には新たな拠点となる住鉱エナジーマテリアル(株)檜葉工場(福島県)が完成しました。
- 結晶材料は、スマートフォン向け部材の需要が好調で、住鉱国富電子(株)(北海道)、大口電子(株)(鹿児島県)、青梅事業所(東京都)で増産を進めました。

### 今後の展望

- 電池材料では、車載用電池向けのさらなる需要拡大が見込めることから、今後も増産を進めていきます。
- スマートフォン向けSAWフィルターの部材として使われる結晶材料(タンタル酸リチウム基板、ニオブ酸リチウム基板)の増産を確実に進めていきます。

セグメント売上高 構成比

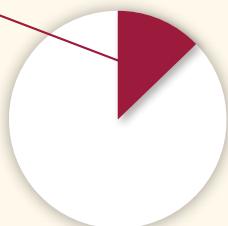
12.8%

セグメント売上高

1,197億51百万円

セグメント損益

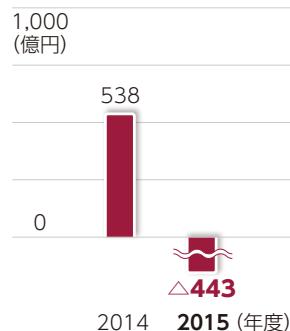
△443億17百万円



売上高



セグメント損益



セグメント売上高 構成比

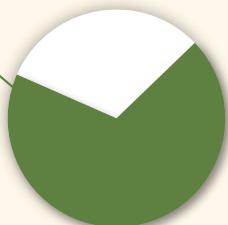
68.8%

セグメント売上高

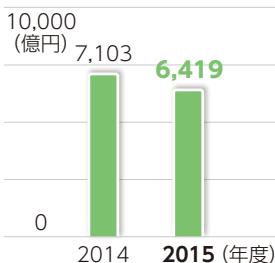
6,419億32百万円

セグメント利益

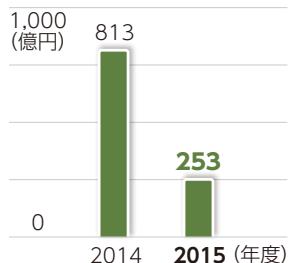
252億58百万円



売上高



セグメント利益



セグメント売上高 構成比

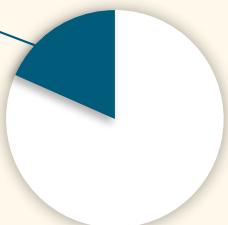
18.4%

セグメント売上高

1,715億97百万円

セグメント利益

59億72百万円



売上高



セグメント利益

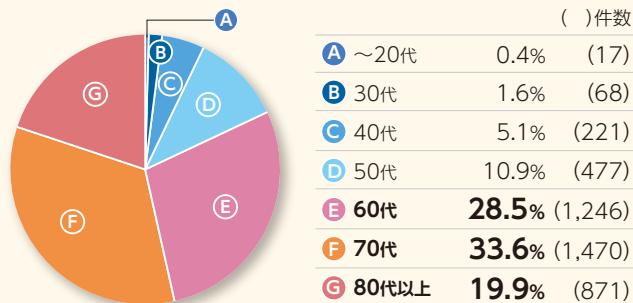


## 【特集】株主アンケート

株主様より多くのアンケートのご回答をお寄せいただきました。

アンケート回答数：4,399件  
アンケート返信率：10.9%

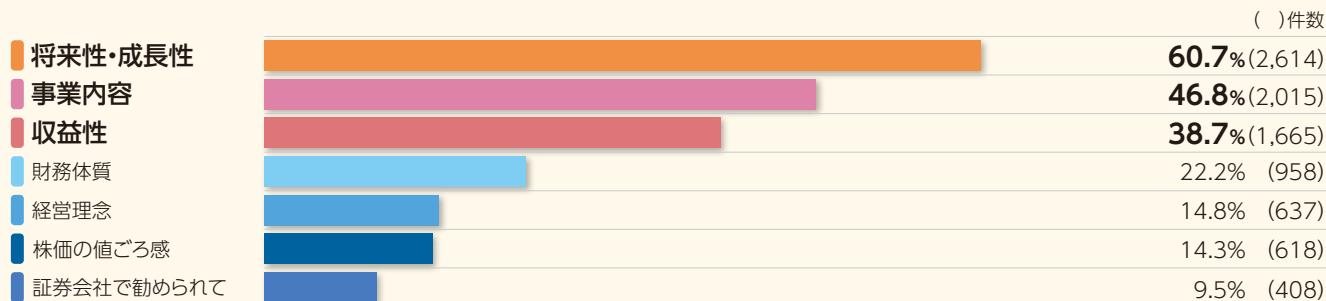
### Q ご年齢



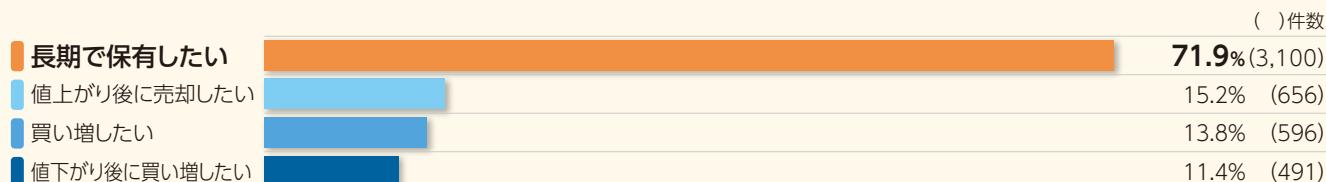
### Q 保有期間



### Q 購入理由 (複数回答可)

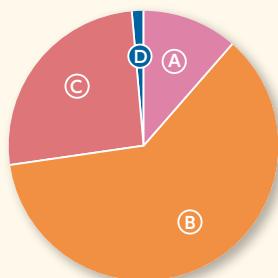


### Q 保有方針 (複数回答可)



2015年12月に発行した「株主のみなさまへ」(第91期中間報告書)にあわせ、アンケートを実施させていただきましたところ、多くの株主様よりご回答をお寄せいただきました。お忙しいなかご協力いただき誠にありがとうございました。下記に一部ではありますが、ご回答の集計結果をご報告いたします。

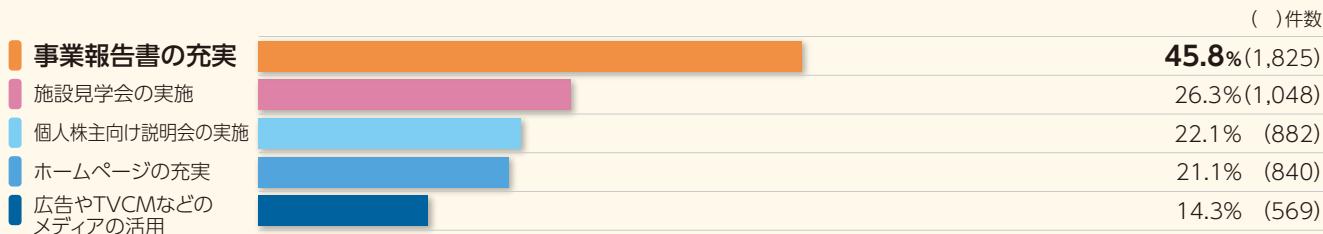
## Q 事業内容についてどの程度ご存じですか？



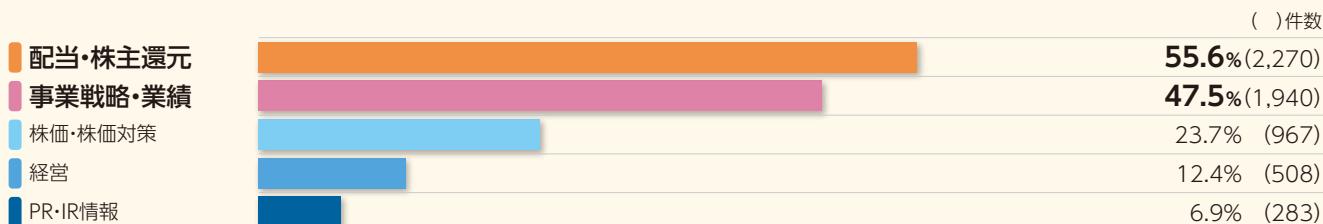
	( )件数
A 把握している	10.8% (458)
B ほぼ把握している	62.4% (2,651)
C あまり把握していない	25.3% (1,075)
D 全く把握していない	1.5% (62)

いただいたご意見を  
今後の経営やIR活動の  
参考とさせていただきます。  
ご協力いただきありがとう  
ございました。

## Q IR活動で期待するものは何ですか？ (複数回答可)



## Q 積極的に発信を望む情報は何ですか？ (複数回答可)



# [トピックス]

住友金属鉱山の今がわかる、注目トピックスを時系列にまとめてご紹介します。

2015年

4月～10月

11月

12月

## 4月～10月のトピックス

- 「黄金伝説展」に特別協賛
- 「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定（鉄鋼・非鉄金属部門）」で第1位を獲得
- 人材開発部を新設
- 材料研究所が発足
- ポゴ金鉱山、金生産累計300万オンス達成



### コーラルベイニッケル社、 鉱物産業環境大統領賞 を受賞

当社子会社のコーラルベイニッケル社（フィリピン）は、フィリピン第62回全国鉱山安全環境会議で、環境天然資源省より「鉱物産業環境大統領賞」を受賞しました。これは、フィリピンの鉱山業において最も栄誉ある賞とされています。今回、同社はプラントにおける環境管理や安全管理、地域貢献などを評価されての受賞となりました。またこれと併せ、鉱業森林計画最優秀賞、最優秀鉱山安全賞も受賞しています。



### モレンシー銅鉱山の 権益13%の取得に合意

当社は2016年2月にモレンシー銅鉱山（アメリカ）の権益13%を、鉱山を運営するフリーポート・マクモラン社から追加取得することに合意し、5月にその手続を完了しました。これにより、1986年以来30年にわたり保有している権益が12%から25%となりました。

モレンシー銅鉱山は進めてきた拡張工事が完了し、2015年の年間生産量は約48万トンと世界トップクラスの生産量となりました。今回の権益取得により利益貢献が期待されます。



## 第19回 環境コミュニケーション大賞 優良賞を受賞

当社発行の「CSR報告書2015」が、環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する第19回「環境コミュニケーション大賞」において優良賞を受賞しました。

環境コミュニケーション大賞は、すぐれた環境報告書等や環境活動レポートを表彰することにより、環境コミュニケーションの取組の拡がりや、情報開示の質的向上を図ることを目的としています。

当社CSR報告書は2016年度から、アニュアルレポートと合わせた形の統合報告書として発行する予定です。

2016年3月

## 電池材料 2拠点生産体制が完成 生産能力は1,850トンへ

2016年3月に電池材料の2拠点目となる住鋳エナジーマテリアル(株)檜葉工場(福島県)が完成しました。電池材料事業では、磯浦工場(愛媛県)でハイブリッド車向け水酸化ニッケルと電気自動車向けニッケル酸リチウムを生産しており、新たに完成した檜葉工場ではニッケル酸リチウムを生産していきます。

当社は、本業を通じて社会に貢献することをCSRの方針としており、檜葉工場からお客様の要請に応える高品質の製品を世の中に提供していくことが、東北地方の復興支援にも寄与することになっていくと考えています。



安倍首相と檜葉工場従業員の懇談

### 安倍首相が檜葉工場を訪問

3月5日、安倍晋三首相が福島県視察の一環として、住鋳エナジーマテリアル(株)檜葉工場を訪問しました。安倍首相は工場を視察した後に地元出身の従業員と懇談し、「被災した皆さんがいろいろな苦労の中から新たにこの地で頑張っていこうという決意を伺って大変心強く感じました。そして、これからまさに福島を切り拓いていてもらいたいなと思いました。皆さん一緒に頑張っていきましょう」と激励してくれました。

### 檜葉工場の竣工式を開催

3月24日、経済産業副大臣、復興副大臣、福島県副知事、檜葉町長など多数の来賓をお招きし、檜葉工場の竣工式が執り行われました。市場の拡大にスピーディーに対応するため、日本化学産業株式会社が保有する既存の建屋を使用、当初は20ヵ月かかる計画でしたが、1年強で完成させることができました。

檜葉工場の社員は当社の主要拠点である愛媛県新居浜市の工場・施設での研修を通じ、当社の企業文化と、操業にとって何よりも大切な安全・品質管理の重要性を学ぶことができました。現在、フル操業をめざして約60名の社員が一丸となって立ち上げに取り組んでいます。

# [連結財務諸表(要約)]

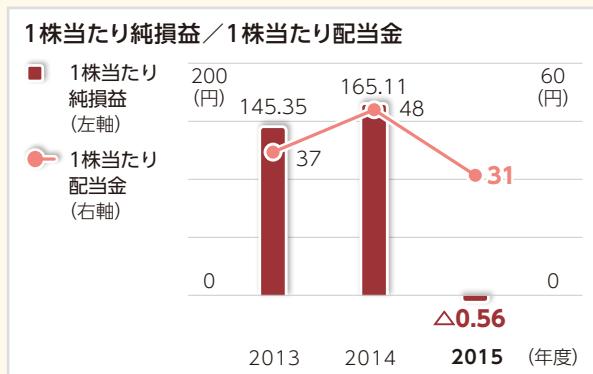
当期の売上高は、金属価格が下落したことなどにより、前期と比べ659億円減少し8,554億円となりました。

営業利益は、金属価格の下落とこれに伴う在庫評価損の発生などにより、前期と比べ661億円減少し597億円となりました。

経常損益では営業利益の減少に加え、シエラゴルダ鉱山社が減損損失を計上したこと、期末に急速に円高が進んだことによる為替差損の発生などにより、前期と比べ1,870億円悪化し、128億円の損失となりました。

親会社株主に帰属する当期純損益は、前期と比べ914億円悪化し、3億円の損失となりました。

売上高 前期比 7.2%減	<b>8,554</b> 億円
営業利益	<b>597</b> 億円
経常損益	<b>△128</b> 億円



連結損益計算書 (単位:百万円)	当期 2015年4月1日～ 2016年3月31日	前期 2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高	<b>855,407</b>	921,334
売上原価	<b>741,545</b>	747,077
売上総利益	<b>113,862</b>	174,257
販売費及び一般管理費	<b>54,142</b>	48,478
営業利益	<b>59,720</b>	125,779
営業外収益	<b>17,458</b>	56,291
営業外費用	<b>89,942</b>	7,844
経常利益又は経常損失(△)	<b>△12,764</b>	174,226
特別利益	<b>16,615</b>	324
特別損失	<b>3,292</b>	51,289
税金等調整前当期純利益	<b>559</b>	123,261
法人税等合計	<b>20,356</b>	45,349
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	<b>△19,488</b>	△13,201
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	<b>△309</b>	91,113

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)	当期 2015年4月1日～ 2016年3月31日	前期 2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>119,704</b>	120,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△92,876</b>	△105,024
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△4,003</b>	△39,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>△2,720</b>	△795
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<b>20,105</b>	△24,863
現金及び現金同等物の期首残高	<b>177,720</b>	202,583
現金及び現金同等物の期末残高	<b>197,825</b>	177,720

**当期末の資産**は、主に投資有価証券の減少により、前期末と比べ1,094億円減少し、1兆6,308億円となりました。

**負債**は、主に利益が減少した影響で未払法人税が減少したことにより、前期末と比べ265億円減少し、5,548億円となりました。

**純資産**の減少については、主に一般株式の株価下落に伴い、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものです。

**自己資本比率**は、60.3%と健全な水準を維持しています。

## 総資産

前期末比 6.3%減

16,308億円

## 自己資本

前期末比 6.5%減

9,830億円



## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末 2016年3月31日	前期末 2015年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	539,079	545,861
固定資産	1,091,721	1,194,385
有形固定資産	453,534	469,373
無形固定資産	9,382	10,765
投資その他の資産	628,805	714,247
資産合計	1,630,800	1,740,246
<b>負債の部</b>		
流動負債	225,267	238,425
固定負債	329,538	342,876
負債合計	554,805	581,301
<b>純資産の部</b>		
株主資本	891,368	916,575
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	86,067	86,066
利益剰余金	744,886	770,020
自己株式	△32,827	△32,753
その他の包括利益累計額	91,590	134,649
非支配株主持分	93,037	107,721
純資産合計	1,075,995	1,158,945
負債純資産合計	1,630,800	1,740,246

# [ 会社情報 ]

## 会社概要

(2016年3月31日現在)

商号 住友金属鉱山株式会社  
Sumitomo Metal Mining Co.,Ltd.  
本社所在地 東京都港区新橋五丁目11番3号  
創業 天正18年(1590年)  
設立 昭和25年(1950年)  
資本金 932億円  
従業員数 連結：8,734名 単独：2,267名

## 取締役および監査役

(2016年6月27日現在)

取締役会長 家守 伸正  
取締役社長 中里 佳明\*  
取締役 土田 直行  
緒方 幹信  
野崎 明  
社外取締役 牛嶋 勉  
泰松 齊  
中野 和久  
常任監査役 佐藤 元  
(常勤)  
監査役 中山 靖之  
(常勤)  
社外監査役 三和 彦幸  
近藤 純一

## 執行役員

(2016年6月27日現在)

社長 中里 佳明  
専務執行役員 土田 直行  
緒方 幹信  
常務執行役員 飯島 亨  
後根 則文  
黒川 晴正  
杉浦 卓  
野崎 明  
執行役員 岡田 功  
小田 浩久  
角谷 博樹  
浅井 宏行  
森本 雅裕  
今村 正樹  
朝日 弘  
井手上 敦  
猪野 和志  
安川 修一  
水野 文雄  
貝掛 敦  
松本 伸弘

注 \*印は、代表取締役です。

# [ 株式状況 ]

## 株式の状況

(2016年3月31日現在)

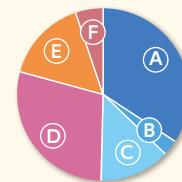
発行可能株式総数 1,000,000,000株  
発行済株式総数 581,628,031株  
株主数 42,678名

## 株式分布状況

(2016年3月31日現在)

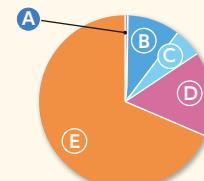
### 所有者別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
A 金融機関	198,991,930	34.21
B 証券会社	17,370,820	2.99
C その他の国内法人	76,690,157	13.19
D 外国法人等	167,768,673	28.84
E 個人その他	90,810,396	15.61
F 自己名義株式	29,996,055	5.16



### 所有株式数別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
A 1~999	1,758,464	0.30
B 1,000~9,999	58,419,674	10.04
C 10,000~99,999	40,222,298	6.92
D 100,000~999,999	82,623,261	14.21
E 1,000,000~	398,604,334	68.53



# [ 株式メモ ]

## 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

## 株主総会

定時株主総会 毎年6月  
臨時株主総会 必要の都度

## 基準日

定時株主総会 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

## 株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

## 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先)  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先)  
0120-782-031

## 公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。

## 株式に関するお届けおよび照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

## 単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様をご所有の単元未満株式(1~999株)を当社が買取させていただく制度がございます。また、株主様をご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよび照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

## 配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的にお振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。

お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよび照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

## 当社ホームページのご案内

ホームページでも、投資家情報をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

<http://www.smm.co.jp/>



当冊子についてのお問合せ先

 **住友金属鉱山株式会社** 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号

TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215

